

7.1 計画の策定体制

7.1.1 組織

調布市道路総合管理計画を策定するにあたり、市が目指すべき道路管理の在り方、方向性などについて、各専門分野から選出した外部の委員で構成した「調布市道路総合管理計画策定等推進委員会議（以下「会議」という。）」を設置し、会議からの専門的な助言を踏まえた上で計画を策定しました。

表 7-1 調布市道路総合管理計画策定等推進委員 名簿 ※敬称略

役職	氏名	現職名	委嘱期間
委員長	屋井 鉄雄	東京工業大学 特命教授/ 一般財団法人 運輸総合研究所 所長	令和 2 年～ 令和 6 年
委員	竹内 康	東京農業大学 地域環境科学部 地域創成科学科 教授	令和 2 年～ 令和 6 年
委員	千々和 伸浩	東京工業大学 環境・社会理工学院 土木・環境工学系 准教授	令和 2 年～ 令和 6 年
委員	難波 悠	東洋大学 大学院経済学研究科 公民連携専攻 教授	令和 2 年～ 令和 6 年
委員	濱野 周泰	東京農業大学 客員教授	令和 2 年～ 令和 6 年
委員	秋山 一弘	秋法律事務所 弁護士	令和 3 年～ 令和 6 年
委員	渡邊 知徳	弁護士	令和 2 年

7.1.2 計画策定の過程

調布市道路総合管理計画は、以下の過程で策定しました。

表 7-2 調布市道路総合管理計画策定の検討経過

実施日	会 議
令和 2 年 1 月 6 日	第 1 回調布市道路総合管理計画策定等推進委員会議
令和 2 年 2 月 19 日	調布市公共施設等マネジメント推進検討会議
令和 2 年 8 月 3 日	第 2 回調布市道路総合管理計画策定等推進委員会議
令和 3 年 10 月 4 日	第 3 回調布市道路総合管理計画策定等推進委員会議
令和 4 年 11 月 1 日	第 4 回調布市道路総合管理計画策定等推進委員会議
令和 5 年 8 月 3 日	第 5 回調布市道路総合管理計画策定等推進委員会議
令和 5 年 8 月 25 日	調布市公共施設等マネジメント推進検討会議
令和 5 年 11 月 8 日	第 6 回調布市道路総合管理計画策定等推進委員会議
令和 6 年 2 月 9 日	調布市公共施設等マネジメント推進検討会議

※調布市道路総合管理計画策定等推進委員会議の事務局は、都市整備部道路管理課です。



図 7-1 第 5 回調布市道路総合管理計画策定等推進委員会議の様子

7.2 用語集

用語	解説
あ行	
IoT	Internet of Things の略。「モノのインターネット」と呼ばれている。これまでインターネットに接続されてきたパソコンやスマートフォンに加えて、自動車や家電など様々なモノがインターネットにつながるようになっていくことが予測されている。
ICT	Information and Communication Technology の略。情報 (information) や通信 (communication) に関する技術の総称。我が国では同様の言葉として IT (Information Technology : 情報技術) の方が普及していたが、国際的には ICT がよく用いられ、近年日本でも定着しつつある。
一般市道	市道のうち、主要市道以外の道路のこと。
一般市道 (枝番)	一般市道のうち、一般市道 (親番) 以外の行き止まり道路などのこと。
一般市道 (親番)	一般市道のうち、調布市地区内道路網計画に位置づけがあるもの。主要市道間を結ぶ道路。主要施設等を通る道路のこと。
インフラ	infrastructure の略。産業や社会生活の基盤となる施設。道路・鉄道・港湾・ダムなど産業基盤の社会資本、および学校・病院・公園・社会福祉施設等の生活関連の社会資本など。人々の社会生活を支える基盤となる施設や設備のこと。
AI	Artificial Intelligence の略。AI は、インターネットなどを介して他の AI、情報システムなどと連携し、ネットワーク化されること (AI ネットワーク化) により、その便益及びリスクの双方が飛躍的に増大するとともに、空間を越えて広く波及することが見込まれている。
API	Application Programming Interface の略。プログラムの機能をその他のプログラムでも利用できるようにするための規約であり、特定の機能を利用することができる。
MMS 測量	Mobile Mapping System の略。GPS、レーザースキャナ、カメラなどの機器を搭載し、走行しながら 3 次元の道路の形状・データを高精度で効率的に取得するもの。
LED	発光ダイオード (Light Emitting Diode) と呼ばれる半導体。街路灯などの光源として使われる。

用語	解説
沿道区域	道路に接続する区域で、道路の構造または機能に及ぼす障害の予防や道路の交通に及ぼす危険を防止するため道路管理者が条例で定める基準に従い、指定したものの。
オープンデータ	国民誰もがインターネット等を通じて容易に利用できるように公開された官民データのこと。
か行	
カーボンニュートラル	温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにすること。
クラウド	クラウドコンピューティング（Cloud Computing）を略した呼び方で、データやアプリケーション等のコンピューター資源をネットワーク経由で利用する仕組みのこと。
さ行	
査定図	官民道路（河川）境界が記載された図のこと。
GIS	Geographic Information System の略。位置に関する様々な情報を持ったデータを加工／管理したり、地図の作成や高度な分析などを行うシステム技術の総称。複数のデータを地図上で重ね合わせ、視覚的に判読しやすい状態で表示できるため、分析結果の判断や管理もしやすくなる。
時間管理	設定した経過年数により、施設の更新等の対策を講じる施設の管理方法のこと。
事後保全	施設の機能に不具合が生じてから修繕等の対策を講じる施設の管理方法のこと。
私道	個人や法人が所有する土地の一部に設置された道路状の土地のこと。
自発光鋲	路面に埋め込む金属製の鋲のことであり、発光することで交差点の位置を明示するもの。
自費工事	建築工事や駐車場の新設などに伴って、歩道やL型溝の切り下げをしたい時や、道路附属物（ガードパイプ・街路樹等）の撤去・移設を行いたい場合に、道路管理者の承認を得て自費で工事を行うこと。
主要市道	都市計画道路の位置付けがあるもの。国道、都道、鉄道駅もしくは主要市道間を結ぶ道路などのこと。
浸透トレンチ	側面に浸透孔を設けたもの又は有孔性の材料で造られたもので、その周囲を砕石等で覆い集水した雨水を地中に浸透させる施設のこと。
世界測地系	世界的な整合性を持たせて構築された経度・緯度の測定の基準で、国際的に定められている測地基準系のこと。

用語	解説
総価契約	数量、金額（総額）等が確定された上で、契約金額が総額をもって確定される契約のこと。
た行	
脱炭素化	地球温暖化の原因となっている炭素の排出を防ぐために、化石燃料からの脱却を目指すこと。
たわみ量	走行する車の重みなどにより生じる、道路表面の変形量のこと。
単価契約	一定期間内に反復継続して行う簡易な維持補修工事や、緊急の工事で数量を確定できない場合に、その規格や単価だけを決定し、金額はその給付の実績によって算出する契約のこと。
地籍調査	一筆ごとの土地について、所有者、地番、地目の調査並びに境界及び地積に関する測量を行い、その結果「調査図」及び「調査簿」を作成すること。
チャットボット	「チャット（対話）」と「ボット（ロボット）」を組み合わせた用語。
電線共同溝	地上の電柱や上空の電線を地下の空間に収容するための施設のこと。
透水性舗装	表層、基層、路盤等に透水性を有した材料を用いて、雨水を路盤以下に浸透させる機能を持つ舗装のこと。
道路占用	道路に一定の施設を設置したり、地下に電気・電話・ガス・上下水道などの管路を埋設したり、看板を道路の上空に突き出して設置するなど継続して道路空間を使用すること。
道路台帳	道路管理者が作成した道路に関する路線名、幅員、占用物件その他道路に関する基礎的な事項を図面と調書にまとめたもの。
道路土工構造物	切土・斜面安定施設（擁壁など）、盛土等のこと。
な行	
任意座標図面	公共測量に用いられる座標とは異なり、任意の点を原点とした座標を用いて作成した図面のこと。
は行	
ビッグデータ	典型的なデータベースソフトウェアが把握・蓄積・運用し、分析できる能力を超えたサイズのデータのこと。
普通財産	行政財産以外の市が所有する財産のこと。行政財産とは公用又は公共の用に供し、又は供することと決定した財産のこと。

用語	解説
歩行者利便増進道路	特例区域を定めることで、道路空間を活用する際に必要となる道路占用許可が柔軟に認められる制度のこと。 道路管理者が指定を行うことで、テーブルやイス、イベントなど多様な道路空間の活用が可能となる。
舗装	自動車や人の安全、円滑、及び快適な通行に供する路面を形成するために、路床と呼ばれる原地盤の上に構築された構造物のことで、路盤、基層、表層からなる。
ま行	
無電柱化	道路の地下空間を活用して、電力線や通信線などをまとめて収容する電線共同溝などの整備による電線類地中化や、表通りからみえないように配線する裏配線などにより道路から電柱をなくすこと。
門型標識	車道を跨ぐ門型支柱により、標識板を車道部の上方に設置するもの。
や行	
予防保全	施設の長寿命化を図るため、施設の機能が管理水準を下回る前に、補修等の対策を講じる施設の管理方法のこと。
ら行	
ライフサイクルコスト	計画・設計・施工から、維持管理、最終的な撤去までに要する費用の総額のこと。
流域治水	気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、堤防の整備、ダム建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、集水域（雨水が河川に流入する地域）から氾濫域（河川等の氾濫により浸水が想定される地域）にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方のこと。
路面性状	路面のひび割れ・わだち掘れ（走行方向の縦断凹凸）・IRI（路面の平均的な縦断凹凸を評価する指標）のこと。